

# 道徳教材・指導案集

—京都ゆかりの教材を用いて—

平成28年3月 京都市教育委員会



## まえがき

中央教育審議会の答申（平成26年10月）を踏まえ、平成27年3月、学校教育法施行規則及び学習指導要領が一部改正され、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、道徳の時間を教育課程上、特別の教科である「道徳科」として新たに位置づけるとともに、内容の改善や問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどが示されました。

京都市教育委員会では、移行措置期間である平成28年4月から、一部改正後の学習指導要領について先行的に実施することとし、各校の教育課程編成の基準となる京都市立小学校、中学校及び総合支援学校（小学部・中学部）の「教育課程移行措置要領」を作成するとともに、各校が道徳の指導計画を作成する上で指標となる「教育課程指導計画（京都市スタンダード）」についても一部改正後の学習指導要領に基づいて改訂しました。平成30年度以降の全面実施を見据え、各校においては、これらスタンダードに基づいて、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な活動を積極的に取り入れるなど指導方法の工夫を行い、道徳教育を一層充実させる必要があります。

このような状況の中、道徳教育では多様な教材を活用することが重要であることを踏まえ、京都ゆかりの歴史、地域行事、伝統文化など、児童生徒に身近な題材を用いた本市独自の教材・指導案集を作成しました。この教材・指導案集を活用することで、児童生徒の道徳に対する興味・関心を高めるとともに、郷土・京都の伝統と文化を受け継ぎ、進んでその発展に努める態度の育成を図るなど、一層の教育効果をあげられるよう期待します。

道徳教育は、学校教育の中核として位置付けられるものであり、道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」はもちろん、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、児童生徒一人一人の「生きる力」を根本で支えるものです。本市がこれまで積み上げてきた市民ぐるみの「しなやかな道徳教育」を一層進展させるとともに、すべての小学校、中学校、総合支援学校において、各教科等との関連を十分に図り、学校の教育活動全体を通じて適切な指導計画を作成し、発達の段階に応じ、答えが一つではない課題を一人一人の児童生徒が道徳的な問題と捉え向き合う「考える道徳」「議論する道徳」に取り組んでいただきますようお願いします。

結びに、本書の作成にあたり、格別の御尽力と御協力をいただきました京都市小学校道徳教育研究会並びに京都市立中学校教育研究会道徳部会の先生方に心からの感謝の意を表します。

平成28年3月  
京都市教育委員会

# 目 次

## まえがき

---

## 教材・指導案

---

### <小学校>

1	きょうのじぞうほん（B 感謝）	1
2	京のかどはき（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	5
3	ラオスのゾウ（C 国際理解、国際親善）	10
4	大文字（五山の送り火）（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	14
5	思い続けることで夢をかなえる（A 希望と勇気、努力と強い意志）	19
6	動く はく物かん（時代祭）（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	21
7	道をひらく（A 希望と勇気、努力と強い意志）	26
8	名前（B 友情、信頼）	31
9	宇治茶（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	36
10	響け、心のシンフォニー（C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	40
11	比えい山の眺め（D 自然愛護）	43
12	わたしの大文字駅伝（A 個性の伸長）	46
13	「源氏物語」と出会ったときから（C 国際理解、国際親善）	49

### <中学校>

1	ニューヨークを救ったアイディア（A-(2) 節度、節制）	52
2	門掃き（C-(12) 社会参画、公共の精神）	57
3	花いらんかえ（C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度）	63
4	父の大文字（C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度）	69
5	動物と共に（C-(10) 遵法精神、公徳心）	75
6	京都に住んで（C-(10) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度）	83

# 小 学 校



## きょうのじぞうばん

「あ、今日はじぞうばんか。どんなおやつが出るのかな。」

今日は、まちにまつたじぞうばんです。町内の人気が集まってお地蔵さんを参つたり、おやつを食べたり、遊んだりして楽しめます。

たけしは、朝からじぞうばんで出るおやつのことばかり考えていました。毎年じぞうばんで行われる、おやつの時間とくじ引きの時間が待ち遠しくて仕方ないのです。

じぞうばんの会場に行くと、町内会長のわたなべさんが迎えてくれました。

「おはようございます。」

「おはよう。よく来たね、たけしくん。今日は楽しんでね。」

わたなべさんにあいさつをした後、さきに来ていたよしおくんと遊び始めました。

町内の友だちと夢中になつて遊んでいるうちに、あつという間に時間がたち、おやつの時間になりました。たけしは、まつていましたとばかりに走つておやつを取りに行きました。

「あれつ、これだけ。去年はもつとたくさんあつたのに。」

と、たけしは少し不満そうでした。

もう一つの楽しみであるくじ引きでも思うような景品がありませんでした。

「ほしいものがなかつたな。」

「もつといいものもらえるとおもつていたのに。」

たけしとよしおのやりとりを、わたなべさんはぎんねんそうな顔をして見ていました。

じぞうぼんが終わり、片付けが始まりました。町内の人たちがバタバタと片付けをしている中、たけしたちは家に帰つていきました。

夕方になつてから、お家の用事で渡辺さんの家の前を通りかかると、じぞうぼんの片づけを終えたわたなべさんと町内の方が、話している声が聞こえできました。

「今年も終わつたね。毎年手伝つてくれる大人の数が減つてきて地蔵盆をするのが大変だ。参加してくれる子どもの数も減つてきているし。これからも続けていくことはどんどん難しくなつてくるだろうな。」

「でも、じぞうほんは、子どもが元気に成長していくように願つてできたお祭りだ。なんとか続けていかないと。楽しみにしてくれている子どもたちのために頑張らないとね。」

たけしは、はつとしてどこか恥ずかしい気持ちになりました。

一緒に話を聞いていたお母さんは、

「町内のは、みんなたけしたちのことをいっぱい考えてしているんだね。」

と言いました。

たけしは、お母さんの言葉に「くんとうなずき、しばらく考えてから、

「わたなべさんにお手紙を書こう。」

と心の中で思いました。

	主題名	ぼくたちの町大すき	内容項目	C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
1 年 3 月	教材名 ねらい 本時の評価 授業に至るまでに	京のかどはき 身の回りに住んでいる人が自分の住む地域を大切にして守っていこうとしている心にふれることを通して、自分も自分の住む地域や国を大切にしようとする心情を育てる。 ・「かどはき」が、おばあさんのおばあさんからずっと受け継がれていることを聞いて、地域を大切にしているこうとする人々の心情に気付いている。 ・生活科の学習などを通して、地域に活動の輪を広げ、地域のために活動している人たちとふれあう機会を設ける。 ・自分の地域の自然や施設・店など、地域のさまざまなものや人の交流を通して、地域社会の一員としての思いを膨らませるようにする。	出典	京都市小学校道徳教育研究会
	学習活動(発問)	*留意点		評価の視点 (評価の方法)
導入	1 「西陣」「かどはき」について知る。			
展開前段	2 教材「京のかどはき」を読んで話し合う。 (1) 寒い朝、白い息を吐きながら、かどはきをしているおばあさんを見た時、ぼくはどんなことを思つただろう。 (2) おばあさんは、どうしてお嫁にきてから50年かどはきを続けてきたのだろう。 ☆(3) ぼくが「いいもの」だと思ったのは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*人と人との温かいふれあいが感じられるように、資料の中での会話文を大切に取り扱う。</li> <li>*ぼくの「ふうん。」という言葉の読み方を大切にする。</li> <li>*ぼくの気持ちを考えることで、地域を大切に思う心とその心がずっと受け継がれてきていることの尊さに気付くようする。</li> </ul>		
展開後段	3 自分たちの身の回りのことを振り返る。 (1) わたしたちの住む町や国にも「いいもの」があるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*地域社会の一員としての思いを膨らませるようにする。</li> <li>*我が国に古くから伝わるものについても考えられるようにする。</li> </ul>		
終末	4 教師の体験談を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「わたしたちの道徳」を活用し、自分の住む町についての思いを深めようすることもできる。</li> </ul>		
板書計画	<p>いいもの みつけた</p> <p>きれいなおはな・げんきなあいさつ おそうじ・えがお・きれいなこうえん</p> <p>・ぼくのまちや人をたい せつにおもつてくだ さるおばあさん。</p> <p>みんなとあいさつを かけてくださるおば あさん。</p> <p>みんなにこえを よろこんでもらえてう れしいよ。</p> <p>まちがきれいになると うれしいもんよ。</p> <p>ずっとまえからつづけ てきたんだよ。</p> <p>さむいのにたいへんだ なんであさはやく そじしてゐのかな。 がんばつてるな。</p>			
授業後	学習を通してふくらませた地域に対する思いを、体験活動と結びつけるようにし、地域社会の一員としての自覚につなげられるようにする。	「わたしたちの道徳」の活用 「行動の記録」との関わり	4-(5) ふるさとに親しみをもつて	勤労・奉仕

# 京のかどはき

ぼくのいえは、西陣にあります。ちかくに、西陣

おりものかいがんがあります。

「カシヤ、カシヤ」

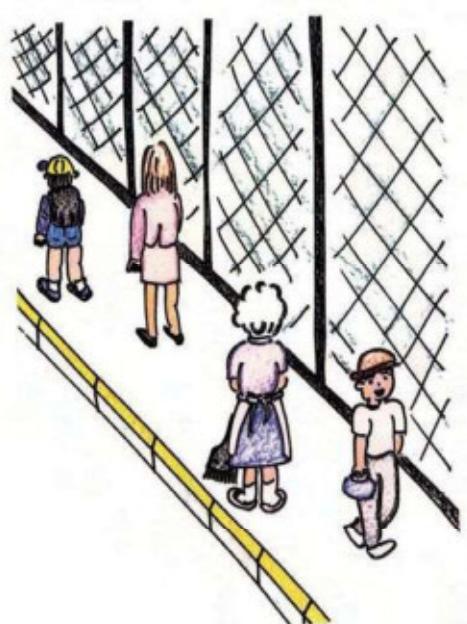
と、はたおりの音おとがする

西陣織お

りでゆうめいな

西陣にしじんです。

あるあさ、ぼくは、かどはきを  
しているおばあさんにあいま  
した。そのおばあさんは、あさ  
さむいのにしろいいきをはき



うけんめいに はいて いえの とや まどを ふいて  
おられました。 そして、きれいにはけた いえの  
まえに 水みずまきも して おられました。

「いつから、かどはきをして おられるのですか。」  
と、ぼくが きくと おばあさんは、  
「わたしが およめに きたときからです。だから、  
もう五十年ぐらいになりますかいなあ。」

「まい日にち つづけてますねんえ。  
わたしは、いま おばあちゃん  
やけど、その まえのおばあちゃん  
いたんですわ。だから つづけ つづけ つづけ  
いたんも ずっと つづけ つづけ つづけ



て い ま す の 。

と 言 い ま し た 。

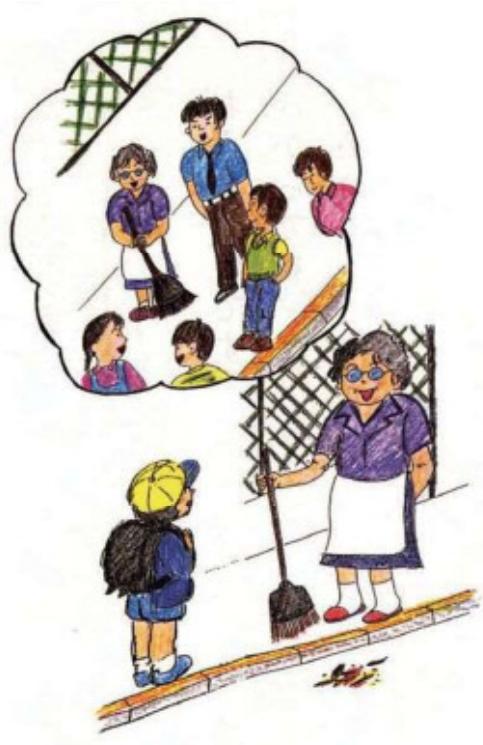
ぼくは、まい 日にち つ て

大たい へ ん だ な あ と お も い ま し た 。

「まいあさ、かどはきを つづけるのは 大たい へんや け ど、  
なんか 美うつくしいに な る と ほつと し ま す え。かどは  
きし て る と き に 『おはようさん。きょうも 気きつけ  
て い つ て ら つ し ゃ い。』と

きんじよの 気き 人ひと に あ い さ つ  
す る の も ち い い も ん  
ど す え。』

と に こ に こ し な が ら は な し  
て く れ ま し た 。



な見みと「ふうん」  
りまなんぼくは、  
しけんだおもいました。  
たよだかに  
た。うないも  
きものを  
もちに



2年	主題名	外国の文化	内容項目	C国際理解、国際親善
	教材名	ラオスのゾウ	出典	京都市小学校道徳教育研究会
	学習のねらい	・動物園で和田さんに聞いた私の気もちを考えることを通して、他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。		
	本時の評価	・ラオスのゾウの話やクイズを通して、他国について知り、親しみをもとうとする。		
	授業に至るまでに	・給食などで外国の料理がでたときは国の名前も紹介するなどして、日本の文化には様々な国の文化を取り入れていることを伝えておく。 ・クラスにいる外国籍児童が有する文化等をあらかじめ伝えるなどして、身近なイメージで受け入れられるようにする。		
	学習活動(発問)	*留意点		評価の視点 (評価の方法)
導入	1 知っている動物について話す。	*資料への導入。動物園や動物の写真などを用意して効果的に提示する。		
展開前段	2 教材「ラオスのゾウ」を読んで話し合う。 (1) 私はどんな気持ちで動物みて回っていたのでしょうか。 (2) 和田さんの話を聞いて私はどう思ったのでしょうか。 ☆(3) もう一度ラオスのゾウを見たときどんなことに気づいたのでしょうか。	*動物とふれ合っている写真なども掲示しながら楽しい雰囲気が伝わるようにする。  *話をフラッシュカードにまとめていくことで発言しやすいようにする。  *ゾウの写真やラオスの石碑などを掲示して外国の文化への気づきとなるようになる。		
展開後段	3 動物から外国への親しみをもつ。京都市動物園の動物がどこから来たのかクイズをしましょう。	*クイズ形式で進め、動物の写真や国旗などを掲示するようにする。		
終末	4 教師の体験談を聞く。	*動物だけでなく生活の中で色々な国 文化があることを伝える。		
板書計画	  	<p>和田さんの写真</p> <p>はじめて知った。 ラオスにいってみたい。 いろいろなことを教え てくれてありがとう。</p>		<p>ラオスのゾウ</p> <p>とてもたのしい。 ほかにもいるのかな。 またきたいな。 もつときわってみたい たくさん見にいきたい。</p>
授業後	日常活動の中で、外国の文化に関連すること（給食や遊びなど）を取り上げ、身近に感じるようしていく。	<p>「私たちの道徳」の活用</p>	—	
		<p>「行動の記録」との関わり</p>	公共心・公徳心	

ラオスのゾウ／京都動物園

「とても楽しみ。」

今日せかやくみんなで京都やむらの園に行へ。むらの園せうじやまへ、これらいな角度からもぐらを睨ねじだれい じつわぬきこと聞いていた。

「クワクしながり中に入る。のせつせでもらったパンフレットを見ると、たしかこの日がひたかがいた。わざわざ近づいたキリンを見に行くと、一階からも見ることができる。キリンの顔が同じ高さにあった。」「おしご。よく見えるな。」

そしてサル山を通りすぎたところにゾウのひろばがある。楽しそうに水あごをするゾウを見て、

「おねえちゃん。ソウでなかよしだね。」

それだけが言つても早く――――――したが、兼のとじゆきが言つて、  
に何やら日本では見たことがないふくやペナントが飾られていた。

と、としゆれと話していらぬと

「じれせラオスつてうの國のふ。わねといしのづくはラオスから来たんだよ。」と通りがかつたおじさんがあえてくれた。そのおじさんはいのむらちの園のじゅうこの和田さんという方だった。

・「ラオスと仲よくなつたのは、日本のぬいぐるみうきわ館の方が、ラオスに学校をつくりたことがきっかけであります」と。

- 2014年にゾウを京都にいたぐことがきまり、このどうぶつ園にきたこと。



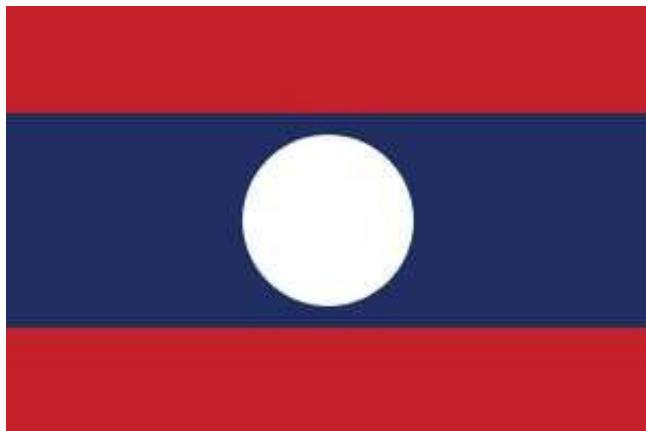
またラオスの国の生かつについても

- ・ラオスではソウといっしょにすんでいる家がある」と。  
・このように圓のヅカはラオス式で他の国で使われている「手力ギ」ではなく「耳かせ」とこの道具でしつかりながらやった。

和田さんにおれいを言つたあと、ラオスから来たゾウをもう一ど見に行つた。何だかさつきよりもラオスという国がとてもちかくにかんじうる。

「他のどこの国か…。」ひょっとしたらこの国が「さういふのを

と思ひながら、たゞせんのじりきつをみておねがひと感つた。



# 園内アツプ



	主題名	すてきな京都	内容項目	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度															
2年9月	教材名	大文字（五山の送り火）	出典	京都市小学校道徳教育研究会															
	学習のねらい	お父さんの話を聞いた後のぼくの気持ちを考えることを通して、郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもとうとする心情を育てる。																	
	本時の評価	・伝統文化（行事）を守り続ける人たちの苦労を知り、郷土（地域）の行事を、いつまでも絶やすず守り続けていくことを大切にする気持ちをもっている。																	
	授業に至るまでに	・事前に、地域や学校周辺にどのような伝統文化があるのか調べ、わかったものについては教室に掲示しておく。 ・父母、祖父母などに、郷土の良いところとそのわけを聞いておく。																	
	学習活動（発問）	*留意点		評価の視点 (評価の方法)															
導入	1 自分たちの住む地域の行事や、その行事に参加した経験を発表する。	*写真などを用意して送り火を身近なものに感じられるようにする。																	
展開前段	2 教材「大文字」を読んで話し合う。 (1) 忙しそうにしているお父さんの姿を見たぼくの思いについて話し合おう。  (2) 準備や片付けにがんばっているお父さんの気持ちを声に出してみよう。その時の気持ちを考えよう。  (3) ぼくの質問に答えたお父さんの気持ちはどうだったのだろう。 ☆(4) お父さんの話を聞いた後のぼくはどう考えたのだろう。	*父の苦労に共感できるようにするとともに、苦労の中に成就感があることをつかめるようにする。  *父の姿から郷土への親しみと愛着の心に気付けるようにする。 *がまんすることを知った「ぼく」の気持ちを、自分とのかかわりで考えができるようにする。																	
展開後段	3 自分たちの住む地域の行事や、その行事に携わっている人たちに手紙を書く。 (1) 行事にかかわっている方への手紙を書こう。	*郷土（地域）の行事を守り続けていくことの大切さをとらえる。																	
終末	4 教師の話を聞く。	*地域の伝統行事に携わる人々の苦労などを取材して用いるのも効果的である。																	
板書計画	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">ぼく</td> <td style="width: 50%;">いつまでもまもりつけよう。</td> <td style="width: 25%;">お父さん</td> </tr> <tr> <td>つまらないな。</td> <td>→</td> <td>ほこりに思っている。</td> </tr> <tr> <td>ぼくも。 大きくなつたら がまんしないと。</td> <td>あげる かんせいを かんしゅう</td> <td>でんとうをまもるため</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大文字</td> <td>休みがなく たいへんだ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>もえさかる 大の字</td> <td>今年もがんばるぞ。</td> </tr> </table>				ぼく	いつまでもまもりつけよう。	お父さん	つまらないな。	→	ほこりに思っている。	ぼくも。 大きくなつたら がまんしないと。	あげる かんせいを かんしゅう	でんとうをまもるため		大文字	休みがなく たいへんだ。		もえさかる 大の字	今年もがんばるぞ。
ぼく	いつまでもまもりつけよう。	お父さん																	
つまらないな。	→	ほこりに思っている。																	
ぼくも。 大きくなつたら がまんしないと。	あげる かんせいを かんしゅう	でんとうをまもるため																	
	大文字	休みがなく たいへんだ。																	
	もえさかる 大の字	今年もがんばるぞ。																	
授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事に積極的に参加できるように促す。</li> <li>生活科の学習との関連を図りながら、地域社会を見つめ郷土に愛着をもち、大切にしていこうとする心情を高めるようにする。</li> </ul>	<p>「わたしたちの道徳」の活用 「行動の記録」との関わり</p>		4-(5) ふるさとに親しみをもつて 公共心・公徳心															

大文字（五山の送り火）



ぼくの　お父さんは、「大文字ほぞん会」に　入つて　います。  
毎年、おぼんの　ころに　なると、火どこの　じゆんびを　した

り、山へまきをはこび上げたり、火どこのまわりの草をかつたりして、いそがしそうにしています。会社の夏休みが、「大文字」のじゅんびとあとかたづけで、つぶれてします。

ぼくは、お父さんとあまり遊ぶことができないので、つまらなく思つたこともありました。だから、「あんな『大文字』なんて、なかつたらええのに。」とか、「なんであんなあついことせんなんのやろ。」とか、思つたりしていました。

この前、お父さんに、「なんで、毎年、こんなことすんの。」

と、聞いたら、

「これは、ごせんぞ様を

お送り

する　だいじな

行事なんや。

これを　まつて　いる　人は、たくさん

いやはるんやで。そやから、毎年　やら

な　あかんのや。それに、むかしから

つづけられて　きた　すばらしい　行事

やから、日本中<sup>にほんじゅう</sup>から　たくさん　人が

見みに　きやはるんや。そやから、お父さ

んも　『大』の　火を　もやす　ことを

たいせつに　思つて　いるんやで。『大

文字ほぞん会』の　人も、この　たいせ

つな　行事を　いつまでも　まもりつづ

けようと、がんばつてはるんや。」



と 言つて いました。  
ぼくは、お父さんの  
夜空よぞらに 赤く、大きく  
した。

もえる 話はなしを

聞いてから、頭あたまの  
「大」の字が 中に  
うかんで

きま 夏の

3年	主題名	努力と強い意志	内容項目	A希望と勇気、努力と強い意志	
	教材名	思い続けることで夢をかなえる	出典	京都市小学校道徳教育研究会	
	学習のねらい	アメリカの会社からの仕事をやり遂げた和夫の気持ちを考えることを通して、自分でやろうと決めたことはあきらめないで、粘り強くやり遂げようとする実践意欲を育てる。			
	本時の評価	・和夫の思いに共感し、自分でやろうと決めたことはあきらめないで、粘り強くやり遂げようという意欲をもっている。			
	授業に至るまでに	・京都には、たくさんの有名な企業があつたり、人物がいたりすることを紹介しておく。 ・「京都学びの街 生き方探究館」から発行されている漫画資料を紹介したり、「京都モノづくりの殿堂」で体験したことを振り返ったりしておく。			
	学習活動(発問)	*留意点	評価の視点 (評価の方法)		
導入	1 稲盛和夫について知っていることを話し合う。	*稻盛和夫の簡単な生い立ちを紹介し、彼の偉業と資料のイメージができるようする。			
展開前段	2 教材「思い続けることで夢をかなえる」を読んで話し合う。 (1) 研究室に泊まり込み、研究に打ち込んでいるとき、和夫はどんなことを思っていたのでしょうか。 (2) 「今日かぎりで会社をやめます!」と大きな声で叫んだとき、和夫は、どのようなことを思っていたのでしょうか。 ☆(3) アメリカの会社からの仕事をやり遂げたとき、和夫はどんな気持ちだったのでしょうか。	*自分が望んだ仕事でなくとも、一生懸命取り組む和夫の姿勢を感じ取ることができるようする。  *和夫がくやしかった気持ちに共感できるようする。  *あきらめずに思い続けたことが仕事をやり遂げたことにつながったことを理解できるようする。			
展開後段	3 自分の生活を振り返る。 (1) これから取り組んでいきたいことやかなえたい夢について話し合おう。	*小さなことあっても、あきらめずに取り組んでいきたいという気持ちを大切にできるようする。	・自分でやろうと決めたことはあきらめないで、粘り強くやり遂げようという意欲をもって発言したり書いたりしている。 (発言内容・ワークシート)		
終末	4 「稻盛和夫の名言」を紹介する。 『最初から無理だと諦めてしまっては、何ごとも成功しない。』	*BGMを流し、「稻盛和夫の名言」を紹介することで、夢の実現について考えられる雰囲気を作る。			
板書計画	<p>『最初から無理だと諦めてしまつては、何ごとも成功しない。』</p> <p>アメリカの会社からの仕事をやりとげる う。みんなありがと ・みんなありがと ・あきらめなくて ・よかつた。 ・あきらめなくて ・よかつた。</p> <p>「今日かぎりで会社をやめます！」</p> <p>仕事ができない ・こんな上司とは ・なぜなんだ。 ・くやしい。</p> <p>「今日かぎりで会社をやめます！」</p> <p>作りたい。 ・新しいせい品を ・ぜつ対に成こう ・するぞ。</p> <p>研究に打ち込む和夫 ・十三才でびょう気に ・中学受けんに失敗 ・家の仕事の手伝い ・い者になりたかった。</p> <p>いな森和夫 ・十三才でびょう気に ・中学受けんに失敗 ・家の仕事の手伝い ・い者になりたかった。</p>				思い続けることで夢をかなえる あきらめないで、ねばり強くやりとげよう。
授業後	・夢を叶えた人物について調べてみたり、自分が夢に向かって、現在、取り組んでいることを、定期的に振り返る機会を設けたりする。	「わたしたちの道徳」の活用 「行動の記録」との関わり	1-(2) やろうと決めたことは最後まで 自主・自律		

## 思い続けないと夢をかなえる

大学を卒業した和夫は、働く会社が決まりませんでした。心配した先生が紹介してくれたのは、つぶれかかって、給料の支払いが遅い……そんな会社でした。和夫はがっかりしましたが、「せっかく入れたのだから、がんばって仕事をして、この会社を立て直さう。」と考えました。研究室に泊まり込み、研究に打ち込みました。

「新製品の開発に成功した。次の製品だ。」と必死に取り組んでいたのに、「もう少しのじいので、「きみの力では無理だ。後はほかの者にやらせる」と上司に言われてしましました。和夫はぐやしくてたまらません。「今日をかぎりで会社をやめます!」大きな声で叫んでいました。

会社をやめて困っていた和夫に、「自分の会社をつくればいい」と応援してくれる人がいました。「あなたのために、会社をつくりあげましょ。」と、お金を出してくれる人もいました。「私たちもやめて、稻盛さんについて行きます」と会社の仲間が言ってくれました。こうして和夫が二十七才のとき、「京都セラミック株式会社（京セラ）」ができました。

注文が来ると、和夫はその部品の役割やつくり方をみんなにわかるまで、ていねいに教えました。「お金は天から降ってこない」と、力を合わせて働きました。「会社がつぶれたらい、生活ができなくなる」と必死で働いた結果、一年でもうかる会社になりました。アメリカの月へ行く宇宙船にも、部品が使われ、月に人類を送りたい、宇宙への大きな計画に「京セラも参加することになりました。

そんなとき、アメリカの有名なコンピュータ会社から、一五〇〇万個もの部品の注文が来ました。その部品をつくるためには、とても難しい技術が必要でした。でも、京セラの技術を信用して仕事を頼んでくれたのです。

「うちの会社でつくれるだろ?」と和夫は不安でしたが、反面、「この難しい仕事をやりとげれば、京セラは世界に認められる」とも考へていました。

毎晩、みんなで遅くまで残って仕事を続けました。つまらないかずにはじをふるわせて泣く社員もいました。それでも、「必ずやれる」と信じて、何度も何度も、実験をくり返しました。

一年あまりの間、お盆もお正月も休まず、必死に働きました。そんなある日、ひとつり、注文の部品が完成しました。「バンザイ!」

アメリカの有名なコンピュータ会社からの仕事をやり遂げたことで次々に注目が来て、会社が大きくなっていました。会社が大きくなっていき、世界中に認められるようになりました。一九八〇年、アメリカに事務所を開いたのをはじめとして、ドイツ、メキシコ、中国、インド、ベトナムなど、世界中に進出してきました。和夫の「思い」は実現していました。

年 月	主題名	郷土を愛する心	内容項目	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
	教材名	動くはく物かん（時代祭）	出典	京都市小学校道徳教育研究会
3 年	学習の ねらい	胸を張って歩くなおきの心を考えることを通して、郷土の文化に親しみ、郷土を大切にしようとする心情を育てる。		
10 月	本時の 評価	・時代祭に参加することによって京都の町にほのかな誇りや愛着を感じ始めた「なおき」の気持ちを、共感的にとらえている。		
	授業に 至るまでに	・郷土の祭りや行事にどんなかかわりをもっているか、どんな思いをもっているかなどを把握しておく。		

	学習活動（発問）	*留意点	評価の視点 (評価の方法)
導入	1 時代祭の写真やビデオを見て話し合う。	*写真やビデオを用意し、イメージしやすいようにする。	
展開前段	2 教材「動くはく物かん」を読んで話し合う。 (1) 時代祭に出ることになったなおきは、どんなことを思っていたのだろう。 (2) お父さんやおじいちゃんの話を聞いたなおきは、どんなことを考えたのだろう。 ☆(3) なおきは、どんなことを思って胸を張って歩いてみたのだろう。	*時代祭の写真等を拡大して提示するなどして、共感と関心をもって教材の世界に入り考えられるようにする。  *胸を張って歩いてみたなおきの心に共感できるようにする。	
展開後段	3 自分の生活を振り返り、話し合う。 (1) 自分たちの町のいいところや楽しいところを、なおき君に手紙を書いて知らせよう。	*写真などを用意して、地域のよさについて語り合い共感し合えるようにする。	・京都の町に誇りや愛着を感じ始めた「なおき」の気持ちを、共感的にとらえて発言したり書いたりしている。 (発言内容・ワークシート)
終末	4 自分たちの地域にまつわるお祭りなどの話をゲストティーチャー（地域の方）から聞く。	*思いが高まるように地域行事や祭り、自然の様子のビデオを用意し、余韻をもたせて学習を終えるようにする。	

板書計画	<p>大切なお祭り 自分も一緒に出ること たくさんの人 楽しく見 いてくれる。</p> <p>むねをはつて歩いてみました。</p>  <p>京都の町 長く続くいろいろな時代 どんなお祭りか楽しみだ。</p> <p>はずかしい。 三人で出られてうれしい。</p>	動くはく物かん（時代祭）	
授業後	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土への素朴な誇りや愛着は、地域行事等の積極的な参加によって生じる。そこでは学校文化とは異なる多様で幅広い価値観にふれることができる。児童の地域における体験を交流できる場を設定し、共感していく教師の姿勢や言葉掛けを大切にする。</li> <li>地域での体験活動の感想や資料の一部を道徳コーナーに掲示するなどして、体験活動との関連を図る。</li> </ul>	<p>「わたしたちの道徳」の活用</p> <p>「行動の記録」との関わり</p>	<p>4-(5) きょう土を愛する心をもつて</p> <p>責任感 公共心・公徳心</p>

動くはく物かん（時代祭）だいまつり

動くはく物かん（時代祭）

だいまつり

十月二十二日は、京都の三つの大きなお祭りの一つ、時代祭の日です。

な  
お  
き  
君は、おじいちゃんとお父さんと一緒にむかしのいしょを着て、

だいまつり

時代祭の行列に出ることになりました。

時代祭だいまれいの朝、なおき君くんは小学校でいしようを着きせてもらいました。  
運動場うんどうじょうに出ると、  
「あつ、なおき君くん。行ゆつてらっしゃい。」  
友だちが声をかけてくれました。だけど顔がおけしようで真まつ白しろだつた  
なおき君くんは、はずかしくて下むを向いてしました。

なおき君たちは、学校から出発してご所に行きました。ご所にはいろい  
ろな時代の行列が、集まっています。ぶしのかつこうをしている人、よろ  
いをつけた馬に乗っている人、おだいり様やおひな様のうな人がいつぱ  
いいました。お父さんがなおき君に、



と、目を細めて言いました。二人の話を聞きたがら、自分たちの前や後ろにつづく長い行列を見ていたなおき君は、「すごいなあ。京都の町はずつとむかしから、長いことつづいてきたんやなあ。」と思いました。

ピーヒヤラ、ドンドンドン。笛と太この音で時代祭が始まりました。ご所

や通りは時代祭を見に来た人たちでいっぱいです。外国人の人もたくさん来てています。

かりのいしようを着て矢をせ負ったおじいちゃんが、せ中をピンとのばし馬に乗っています。お父さんも前をしつかり見て弓を持ってどうどうと歩いています。そのとき、

「あれはかまくら時代のぶしだよ。」

しゅう学旅行生らしい中学生の声が聞こえきました。なおき君がふり向くと、そこには明るくて楽しそうな顔がいっぱいならんでいました。こちらを見て写真をとつている人もいます。



むくでかん『おじいちゃん』といやんが言つた『動くはくは物ぶつ  
ねむなきまし。』  
をかなくなき君くたん。『』  
はしあなつては、いつの間にかはづかし  
つの子どももいました。『』  
て歩いてにました。『』  
みまつたつもりで、『』  
した。『』

4年	主題名	粘り強くやり遂げる	内容項目	A希望と勇気、努力と強い意志
	教材名	道をひらく	出典	京都市小学校道徳教育研究会
	学習のねらい	困難を克服する田辺朔郎の姿を通して、やろうと決めたことは粘り強くやり遂げることの素晴らしさに気づき、自分の生き方に生かそうとする心情を育む。		
	本時の評価	困難に打ちひしがれそうな朔郎の苦悩に共感し、その困難を乗り越えていこうとする彼の思いについて考えられている。		
	授業に至るまでに	・社会科で、疏水について学習しておく。 ・疏水記念公園にある殉職者を慰める碑の前で、この碑を自費で建てた朔郎の思いにふれる時間を持つ。		
	学習活動（発問）	*留意点	評価の視点 (評価の方法)	
導入	1 田辺朔郎と北垣国道の生い立ちについて紹介する。	*二人とも京都生まれではない。疏水を完成させてからも、あちこちの街の発展のために力を尽くした人たちだということを紹介する。		
展開前段	2 教材「道をひらく」を読んで話し合う。 (1) 初めて蒸気エンジンを見た時、どんな気持ちだっただろう。 (2) 北垣知事に琵琶湖疏水の建設を任された時、朔郎はどんな気持ちだっただろう。 ☆(3) 人知れず涙を流した朔郎の思いを考えよう。	*朔郎が成長する時期が科学の発達した時代にあったことをおさえる。  *様々な困難をフラッシュカードで示し、疏水の難工事をイメージできるようにする。		困難に打ちひしがれそうな朔郎の苦悩に共感し、その困難を乗り越えていこうとする彼の思いについて考えられている。
展開後段	3 朔郎はなぜ、ヘンリー・ダイアーハー先生の言葉をそばに置いていたのだろう。	*言葉について考えた後、一人一人が思いを込めて、ダイアーハー先生の言葉を「わたしたちの道徳」に書く。	(発言・ワークシート)	
終末	4 感想を書いて交流する。			
板書計画			道をひらく	
授業後	あらためて、琵琶湖疏水のビデオを見るなどして、人の手で作られた偉大な業績を確認できるようにするといい。	「わたしたちの道徳」の活用  「行動の記録」との関わり	P22～P25 「やろうと決めたことは最後まで」	自主・自律

## 道をひらく

粘り強くやり遂げる



京都の蹴上にある疏水記念公園には、田辺朔郎の銅像があります。びわ湖から十数キロメートルもある疏水を建設した人物です。朔郎は、だれもが夢見ていたあきらめていた難しい工事を実現することに成功しました。

朔郎は、当時まだ「江戸」とよばれていた東京で生まれました。江戸が東京になつたのは、

朔郎が七才の時です。朔郎が大きくなつたころ、まわりではようやく電信や鉄道が開業したり、ガス灯が点いたりしました。彼は、まさに時代の変わり目に生まれ育つたのでした。

朔郎が、十二才のことです。アメリカから二年ぶりに帰ってきたおじさんをむかえに

横浜港まで行きました。その時、朔郎はその大きな外国汽船に乗せてもらうことになりました。機関室に入つて初めて蒸気エンジンを見た思い出は、朔郎の心に深く刻まれました。

ものづくりに夢を抱いた朔郎は、その後「工学」を学びました。そして大学を卒業するときには、その計画について聞かされていた「琵琶湖疏水」についての論文を書いたのでした。精密な図や英文で書かれたその論文は、右手の指を京都の調査に行つたときに誤つて骨折していただけ、利き手ではない左手で書き上げたものでした。

そのころ、京都の知事として琵琶湖疏水の実現に動いていたのが北垣国道でした。彼は琵琶湖から京都までの地形を細かく調べさせていました。周りの人を説得してまわり、かげ口を言わながらも信念を曲げませんでした。二人は朔郎の書いた卒業論文を通してめぐり合いました。学校を卒業したばかりの若い朔郎の背には、北垣知事の信頼と難事業の行く末とたくさん人の命と夢がたくされることとなりました。朔郎は、北垣知事の信頼をとても光

榮に思いました。

しかし、実際に工事が始まるとな、その困難は予想を絶するものでした。一千四百三十六メートルの第一トンネルでは、たて穴を掘る方法がとられましたが、硬い岩盤と激しい湧き水との戦いで、五〇メートルを掘るのになんと八か月を要したのでした。

また、別のトンネルでは、落盤事故が発生し、一時は工夫が閉じこめられるということもありました。

困難が生じるたびに、みんなをばげまし、策を講じる朔郎でした

が、人知れず涙を流すことが、何度あつたことでしょう。

いく多の試練を乗り越え、およそ五年後、朔郎が二十九才の時に琵琶湖疏水は完成しました。朔郎の目には、琵琶湖から京都まで流れてくる水がきらきらと輝いていたことでしょう。

琵琶湖疏水だけでなく、その後も朔朗は日本各地の土木工事の現場を飛び回り、日本の発展に尽くしました。

彼がいつも持ち歩いた手帳には、学生時代の恩師ヘンリー・ダイアー先生の言葉が書かれています。

「IT IS NOT HOW MUCH I DID, BUT HOW WELL I DID IT.」

それは、「どれだけがんばってきたかではなく、これから、どれだけのことをやれるか、それがたいせつである」という言葉でした

